



VOL.75

■ ■ ■  
通学合宿で豊かな体験を！

桂川町教育委員会  
教育長 瓜生郁義

子どもたちが親元から離れ、共同で宿泊生活をしながら学校に通う通学合宿は、本年度第1回目を7月6日(日)から6泊7日の日程で湯の浦キャンプ場や町住民センターを会場に実施しました。

台風の接近で一時中断しましたが32名の子どもたちは最後まで元気に合宿を終えることができました。指導者等の皆さん大変お疲れ様でした。

この通学合宿の目標は、子どもの自立と自律を促進して、その独り立ちを目指すことにあります。自立のためには「基本的な生活習慣の確立」、「生きる目標の確立」、「健康な身体と能力」が必要です。また、自律のためには、「社会規範を守る意志と態度の育成」、「強い実践力」が必要となります。

基本的な生活習慣とは一般的に「食事、排泄、睡眠、清潔・着脱衣等」を言います。その上に、あいさつの習慣、整理・整頓、準備や後始末、コミュニ

「桂川っ子」の文字は、桂川中学校美術部員がデザインしたものです。



ケーション能力、日常のルール遵守なども身に付けたい習慣です。

また、通学合宿等の集団生活においては、「自ら判断すること」や「自ら実行すること」そして決定と実行の責任はほかならぬ自分であることをきちんと教えていくことが大切です。

第2回目の通学合宿は9月7日(日)から9月13日(土)まで6泊7日で実施します。

この通学合宿を一つのきっかけとして各ご家庭で子どもたちと協力しながら、より良い生活習慣づくりに取り組んでいただければと考えています。



▶本年度第1回目の通学合宿の様子。

■ ■ ■  
「人と人のかかわり」

大切にできる子ども」の育成

桂川東小学校 校長 西園浩一

最近の子どもたちの課題は、「社会性の基礎となる部分」、すなわち「人とかわりたい」という意欲そのものが低下していることにあると言われています。

「人とかわりたい」と思う気持ちは、自らの体験によって、獲得されるものです。他の子どもと一緒に仕事をしたり遊んだりすることを通して、「人とかわかること」が楽しい。「人とかわかること」が苦痛なことではない」と感じるところから「人とのかかわり」は始まります。それが「社会性の基礎」を形づくっていくのです。

本校では、「進んで協力できた」、「だれかの役に立つことができた」実感を、子どもたちにたくさんもたせることができるように、次の活動を重視しています。

①縦割り活動（異学年の取組）

全校の子どもたちを3ブロック、それぞれ6つに分けて掃除や運動会を行います。

スタート会、リーダー会などで確認しながら活動を進めます。

②ミニ集会（自治活動の推進）

委員会活動は、子どもたちが、桂川東小学校をもっとよい学校にするための仕事を、分担して行う自治的な活動です。

毎月1回、計画委員会がミニ集会を運営して、各委員会の報告やお願いを発表しています。

高学年の自覚や自分への自信を深めることができるように指導しています。

③学級活動（学級集団づくり）

学級活動は学級内の仕事分担や問題の解決など、話し合っって集団としての意見をまとめ、協力して活動する時間です。

自分と違った意見について、説得したり、互いの意見のよさを生かしたり、折り合いを付けたりにして意見をまとめることを、活動を通して学ばせます。

ただ気分を吐き出すための言葉を書き散らすことは、コミュニケーションとは言えません。確かな「かわり」の中で、しっかり子どもたちを育てていきたいと考えます。

